



季節の生き物

～夏・秋の小さな花たち

まだまだ残暑厳しい日が続いていますが、彩湖周辺では、セミの鳴き声がアブラゼミからツクツクボウシへと変わり、コオロギの声も日に日に変わっています。季節は秋に近づいています。

この暑さにもめげず小さな花をつける植物を紹介しします。それは、「コニシキソウ」と「オオニシキソウ」です。もともとは畑や荒地などでふつう見られた植物ですが、最近、彩湖周辺だけでなく、戸田市内の宅地などで増えている植物でもあります。特にU字溝の際や、路地の隅などに多く見られるようになりました。とりわけ「オオニシキソウ」は名前すら知られていない植物で、「何だろう。この植物は？」といったまなざしで見られがちな植物です。しかし、急速に増えている植物です。

では、この2つの植物の特徴をあげてみましょう。

○コニシキソウ（トウダイグサ科）

茎は地面にはって一面に広がり、葉は対生して、葉の中央部に暗紫色の斑点がある。葉のつけ根に紅色の小さな花をつける。北アメリカ原産の帰化植物。



コニシキソウ（全体）



コニシキソウ（拡大）

○オオニシキソウ（トウダイグサ科）

草丈が50cm位になり直立する。上方の枝先に淡い紅色の小さな花をまばらにつける。北アメリカ原産の帰化植物。



オオニシキソウ（全体）



オオニシキソウ（拡大）

ところで、この2つの植物は「トウダイグサ科」という珍しい科の

植物です。トウダイグサ科の「トウダイグサ」は、黄色の花をつける「ノウルシ」と同じ仲間の植物で、田島ヶ原サクラソウ自生地や戸田ヶ原再整地で見られます。和名の「灯台草」は、昔の灯架（※）に全体の形が似ているところからついたと言われています。トウダイグサ科の植物は他に「ニシキソウ」「エノキグサ」「ヒメミカンソウ」などがありますが、畑や荒地がなくなり、今ではほとんど見られなくなりました。

9月はヒガンバナやキクイモ、コスモスなど、大きな花が目立ちます。しかし、道ば

たなどに咲く^さ小さな花たちの生きる^{すがた}姿にも目を向けて欲しいものです。

※灯架^{とうか}（燈架） 燈火（あかり）の油ぎらをのせるもの

講座案内（10月）

10月7日（土） ※雨天8日（日）に延期

「笹目川で投網体験と生きものさがし」

戸田の漁師さんたちに投網を教わります。実際に笹目川で投網の体験をしたり、タモ網で生き物を捕まえたりします。講師の先生と一緒に生き物を観察しましょう。

- 対象：親子（小学生以上の親子）定員20名
- 時間：10:00～15:00
- 参加費：100円（保険代を含む）
- 持ち物：昼食、飲み物、帽子、タオル、着替え、ぬれてもいい靴（運動靴・マリンシューズなど。サンダルは不可）
※ひざくらいまで水につかります。



10月29日（日） ※雨天実施

「ネイチャークラフト」

木の実や枝などの自然の材料で、かわいい飾り物を作ってみませんか？アクセサリーも作れます。オリジナルの作品を記念に持ち帰れば、秋の素敵な思い出になりますよ。

大人の方のみの参加も大歓迎です。

- 対象：誰でも（小学2年生以下は保護者同伴）
定員20名
- 時間：10:00～12:00
- 参加費：300円（材料費、保険代）
- 持ち物：軍手、作品を持ち帰る袋



☆申込方法：彩湖自然学習センターへ電話にてお申込みください。各講座は定員になり次第、受付を終了させていただきます。なお、申込みは講座の1か月前の10時から受け付けています。

※Tel:048-422-9991

※問い合わせ・受付時間 10:00～16:30

※詳しくは彩湖自然学習センターホームページ
(<http://www.city.toda.saitama.jp/site/saiko/>)を
ご覧ください。

